

日本労働組合評議會第二回全國大會

日時 大正十五年四月十一日—十三日

場所 芝罘調會館

議長 野田律太

代議員 百八十九名

議案 二十六件(保留一、撤回一)

本邦労働組合運動に一大變紋を描きし労働総同盟の分裂ありてより既に一
年この間は實に評議會對總同盟の左右對峙の抗爭であつた。
無産政黨組織運動を始めて来た。其の他多数の運動に於てこの二潮流は余りに鮮
明なる對抗を續けて来た。組合指導精神を根本的に相異なる兩者が何時何地に融合点を見出すやは無
産陣營統一上の最大難問に屬する。
評議會は去る一月下旬擴大中央委員會を開催し運動方針の変更を声明した
るが、續いて四月十一日より三日間第二回全國大會を開き、過去の情勢に
鑑み、將來の方策を確立すべく各種議案を審議を淡めた。
大會の前日東京地方評議會本部に於て中央委員會開催中、突如警察官の
臨検を蒙り、近口シヤより密かに帰朝せる總東全房労働組合の河田賢治と
共に松尾直義、杉浦浩一等の棟束騒ぎありしも大會は之を妨がたためた。妨作ら
ず、こゝにおく予定の順序を追ふて格別の混乱もおく進行終了した。

第一日 (四月十一日)